

(別紙 2)

造影剤使用についての説明(CT)

あなたは、造影CT検査でヨード造影剤を使用した造影検査が必要であると考えられました。つきましては、造影剤を使用した造影検査の概要をご説明します。これからの説明で造影検査の必要性、合併症の可能性(リスク)をご理解され造影検査を受けることをご承諾されましたら、「同意書」にご署名をお願いいたします。もちろん検査の途中で造影剤を使用する必要のないことが判明することもありますので、このような場合には造影剤は使用しません。

造影剤とはどのような薬で、どのような目的で使用するか

造影剤とは X 線を利用した画像検査の際に、静脈に注射し画像を見やすくして病気の診断を正確にするための薬です。X 線検査にはふつう有機ヨード造影剤を用います。造影剤は健康な方では 12 時間以内に大半が腎臓から排出されます。病気の種類によっては、その診断や進行の程度、治療方針の決定に造影剤を使用した検査が必要になります。

合併症(リスク)はどうか

- (1) 現在のところ合併症の発生を正確に予知する手段がありませんが、過去にヨード造影剤でアレルギー反応のあった方、薬剤や食物等でのアレルギー反応のある方、ぜんそくの方も合併症の発生率が高くなるといわれています。
- (2) 約 3%で吐き気、嘔吐、気分不快、じんま疹などの皮疹、かゆみなどの軽度の合併症があります。
- (3) 2500～4000 人に1人の割合で急激な血圧の低下によるショックや、のどの粘膜の腫れによる呼吸困難などの重篤な合併症があり、10 万人から 40 万人に 1 人程度で死亡例があるといわれています。
- (4) 造影剤の注射後に熱感が見られることがありますが、これは生理的反応で心配いりません。
- (5) 過去にヨード造影剤でアレルギー反応の既往のある方、ぜんそくの方、腎機能の低下している方、重い心不全の方、重い甲状腺疾患の方、多発性骨髄腫、カルシウム代謝異常のある方、重い肝臓障害の方、糖尿病の方では造影剤は使用できなかったり、使用に制限が加わったりすることがありますので必ずお申し出ください。
- (6) もし合併症が生じた場合は適切な処置をとります。ただちに病院に連絡し、検査を受けられた診療科、または救急外来を受診してください。

遅発合併症について

じんま疹や皮膚のかゆみ、頭痛などの症状が造影検査終了後からやや遅れて(30分から1週間程度)でることがあります。このような場合は、病院に連絡を取り、検査を受けた診療科または救急外来を受診してください。

連絡先	水戸済生会総合病院 TEL 029-254-5151 休日・夜間 救急外来
-----	--